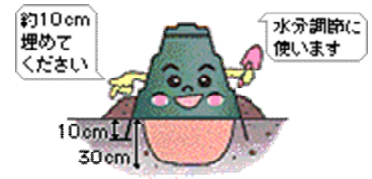


コンポスト容器の使い方（例）

1. 日当たりや水はけの良い場所に設置します。

約 30cm 土を掘り、容器を 10cm 程度地中に埋め固定します。掘った時に出土は容器のまわりに取っておきます。



2. 台所から出る生ごみや、乾燥した落ち葉、雑草等をよく水切りをして投入します。

水分が多いと「発酵・分解」が遅くなったり、臭いが強く出ることがあります。



また、生ごみを細かく刻んでおくと空気に触れやすく分解速度は早くなります。

3. 生ごみを投入したら、その上に土をかぶせます。

土は水分調整、臭いの吸着、発酵促進を手伝います。



4. 土の中の微生物等が、生ごみを「発酵・分解」してたい肥化していきます。

たい肥化するには、投入したものの内容や状態によっても異なりますが、数か月程かかります。

適度に容器の中身をかき回して空気を送り込んでください。



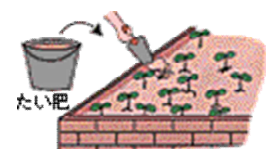
5. 中身が一杯になったら容器を取り、たい肥化しているところから使用します。

たい肥化していない部分は、土やビニール等をかぶせて、たい肥化するまでねかせておきます。

※容器を2台設置し交互に使用すると便利です。



できた「たい肥」は、花壇や家庭菜園などに利用できます。



▶ 利用上の注意事項

- 生ごみコンポスト容器には、微生物が分解できないものは入れないでください。

入れられるもの	台所から出る生ごみ(調理くずや魚の骨、残飯等)、落ち葉、雑草(乾いた物)等の有機物
入れられないもの	ビニール、ガラス、プラスチック類、貝類等

- 必ず土の上に置いてください。(コンクリート、アスファルトの上での使用はさけてください。)
- うじ、はえ等の虫や悪臭が発生した場合は、消石灰を入れるか、土や乾いた落ち葉・燃やした灰などを入れ、水分調整を行ってください。
うじ、はえ等の虫は生ごみを好みます。水分を少なめに保つことで発生抑制ができます。
- 微生物のための栄養成分を豊富に含んでいる米ぬかを加えることも発酵促進に効果的です。
- 発酵を促進させたり、臭いや虫の発生を防止するための微生物調整剤が市販されています。必要に応じてお使いください。(殺虫剤は使わず、消石灰が効果的です。)

(参考資料)

コンポストの正しい使い方

※生ゴミをコンポストへ直接入れずに、土と混ぜてから投入するやり方です。

- ①コンポストは地面にそのまま置く。その外周の隙間から侵入する虫と強風対策の為の盛り土は軽くする(足で地固め、ブロックで抑えるなどは工夫してもよい)。
- ②生ゴミはコンポストの脇の地面にとりあえず一回撒き、大きいスコップを直立で駒の様に回転させたり、その刃で切断したりして同量程度の土と混ぜる。およそ一分。
- ③それを混ぜた土と共にコンポストへ投入。
- ④更に投入した生ゴミの姿が見えなくなるまで土をかける。

これだけです。EM菌も使わず、悪臭や虫も気になるほど発生しません。投入した生ゴミはそれ以上の土とその都度混ぜられているので、容器の中を攪拌する必要もなく、満杯後2~3ヶ月で完熟堆肥になり、これを取り出す間はもう一個のコンポストを使う。つまり、コンポストは2個必要です。

完熟堆肥は殆ど黒土と言って良いレベルです。コンポストを軽く上に引き抜いて取り出せる。畑がなければ、隣の凹んだ地面に。